

研究者の横顔			
フリガナ	ナツメダ マナブ		
お名前	棗田 学	助成金額	100 万円
ご所属	新潟大学 脳研究所 腫瘍病態学分野		
研究テーマ	TP53変異を有する脈絡叢癌に対するP53安定化を図った新規治療法の開発		
1：研究者になろうとしたきっかけ			
<p>私は成人および小児の悪性脳腫瘍を専門としています。放射線治療および化学療法が行われますが、残念ながら満足の行く治療成績が得られていないのが現状であります。治験などを行うのには大変な年月および費用がかかるが故に、個々の腫瘍の病態を理解するのが、正しい治療に辿り着く近道と考えています。</p>			
2：助成研究の内容紹介			
<p>TP53変異を有する脈絡叢癌は極めて稀かつ予後不良な小児脳腫瘍であり、その治療法は確立されておられません。我々は脈絡叢癌を煩ったお子様より培養細胞株(NGT-131株)を樹立しました。エジプト小児がん病院で樹立されたCCHE-45株、東北大学で樹立されたCPC-2株の遺伝子解析の結果、共通してTP53遺伝子変異が特定されました。TP53は様々な癌種に認められる有名な腫瘍抑制遺伝子であるが、有効な標的治療は確立されていません。この度、3つの細胞株に対してP53を安定化させる薬剤を投与したところ、著明な殺細胞効果を認めました。本研究では培養細胞株を使った作用機序の追究、遺伝子改変マウスを使用したin vivoの実験を考えています。</p>			
3：2の将来に繋がる結果予想・目標			
<p>本研究をベースに治療法が確立されていないTP53変異を有する脈絡叢癌に対して、新規治療法が提案でき、治験へと進むことが予想されます。また、手術療法と従来の化学療法と組み合わせることで、根治に持ち込める症例が増え、全生存期間が劇的に延長すると思われます。</p>			
4：全国のRFL関係者に一言メッセージ			
<p>当研究室では、稀少脳腫瘍に対して培養細胞株を樹立し、世界中のラボと共同研究を展開することで最適治療や標的治療に対する耐性機構などを検証しています。このような研究は患児様、ご家族様のご協力があって初めて成立します。この場をお借りし、御礼申し上げます。</p>			